初級簿記

【第13回】

精算表

精算表

1) 決算日までに判明した未処理事項

1. 決算直前に得意先八王子商店に販売した商品に品違いがあり、原価 ¥150,000 (売価 ¥205,000) の商品が返品されてきたが、この取引が処理されていなかった。この返品分については、同店に対する売掛金と相殺することとした。

(借) 売 上 205,000 (貸) 売 掛 金 205,000

1. 得意先から受け入れていた約束手形 ¥350,000を買掛金支払いのため、仕入先高尾商店に裏書譲渡していたが、この取引が処理されていなかった。

(借) 買 掛 金 350,000 (貸) 受 取 手 形 350,000

精算表

3. 出張中の社員から当座預金口座へ振り込まれた ¥280,000 については、仮受金で処理していたが、¥180,000については得意先文京商店に対する売掛金を回収したものであり、¥100,000については得意先茗荷谷商店から受領した手付金であることが判明した。

(借)	仮	受	金	280,000	(貸)	売	掛	金	180,000
						前	受	金	100,000

精算表

2) 期末整理事項

1. 受取手形および売掛金の期末残高に対して3%の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。

(借) 貸倒引当金繰入 8,690 (貸) 貸倒引当金 8,690

2. 売買目的有価証券の時価は ¥ 3,050,000である。時価法により評価替えをする。

(借) 売買目的有価証券 200,000 (貸) 有価証券評価益 200,000

精算表

3. 期末商品の棚卸高は ¥ 783,000である。なお、この期末商品棚卸高には、(1) 決算日までに判明した未処理事項における返品分は含まれていない。売上原価は「仕入」の行で計算すること。

(借) 仕	入	878,000	(貸) 繰	越	商	品	878,000	
	繰	越	商	品	933,000	仕	入	933,000

4. 建物および備品については定額法により減価償却を行う。

- ◆建物 耐用年数30年 残存価額：取得原価の10%
- ◆備品 耐用年数5年 残存価額：取得原価の10%

(借) 減	価	償	却	費	522,000	(貸) 建物減	価	償	却	累	計	額	360,000							
													備品減	価	償	却	累	計	額	162,000

精算表

5. 借入金は、平成24年12月1日に借入期間9ヶ月、年利率5%の条件で借り入れたもので、利息は元金とともに返済時に支払うことになっている。利息については月割り計算による。

(借) 支払利息 50,000 (貸) 未払利息 50,000

6. 保険料は、全額建物に対する火災保険料を6月1日に向こう1年分支払っている。

(借) 前払保険料 20,000 (貸) 保険料 20,000

7. 消耗品の期末未消費高は ¥ 12,290である。

(借) 消耗品 12,290 (貸) 消耗品費 12,290

精算表

8. 家賃の未収分が ¥87,000ある。

(借) 未収家賃 87,000 (貸) 受取家賃 87,000